



取組事例の名称	被災した民間企業所有棧橋の復旧における、水中格点工法による鋼管基礎補強
<p>3. 工事等の実施に当たった課題や留意した事項、苦勞した事柄・教訓</p> <p>鋼管部材が変状しているため、補強部材の寸法を決定するために、水中での精度の高い測量作業が必要であった。また、重量物である補強材を棧橋スラブ直下に運搬・設置しなければならなかった。波浪条件が厳しいため、安全に十分配慮した施工計画が求められた。</p>	
<p>4. 実施後の成果に対する発注者や地元住民等の評価</p> <p>顧客の要求する工期を満足することが出来た。</p>	
<p>5. 採用した技術に対する改善点、望まれる技術</p> <p>災害復旧ということで早期の復旧を目指していたが、測量～設計～格点部材の制作に時間を要したので、工法選定から施工までの時間短縮が課題である。</p>	
<p>6. 今回の取組を通じ、将来の災害対応の為に準備すべきと感じた事項</p> <p>東日本大震災では、棧橋の被災は少なかったが、棧橋をはじめとする岸壁は、港湾物流の重要な役割を担う社会資本である。よって、将来の災害対応のためには、既存施設の耐震補強などの準備を進め、合わせて代替え施設、近隣関係者との相互連携方法の取り組みなどハードとソフトの両面で対策を強力に進めるべきと考える。</p>	
NETIS登録	